

教育相談

第10回

反転授業

新島学園短期大学

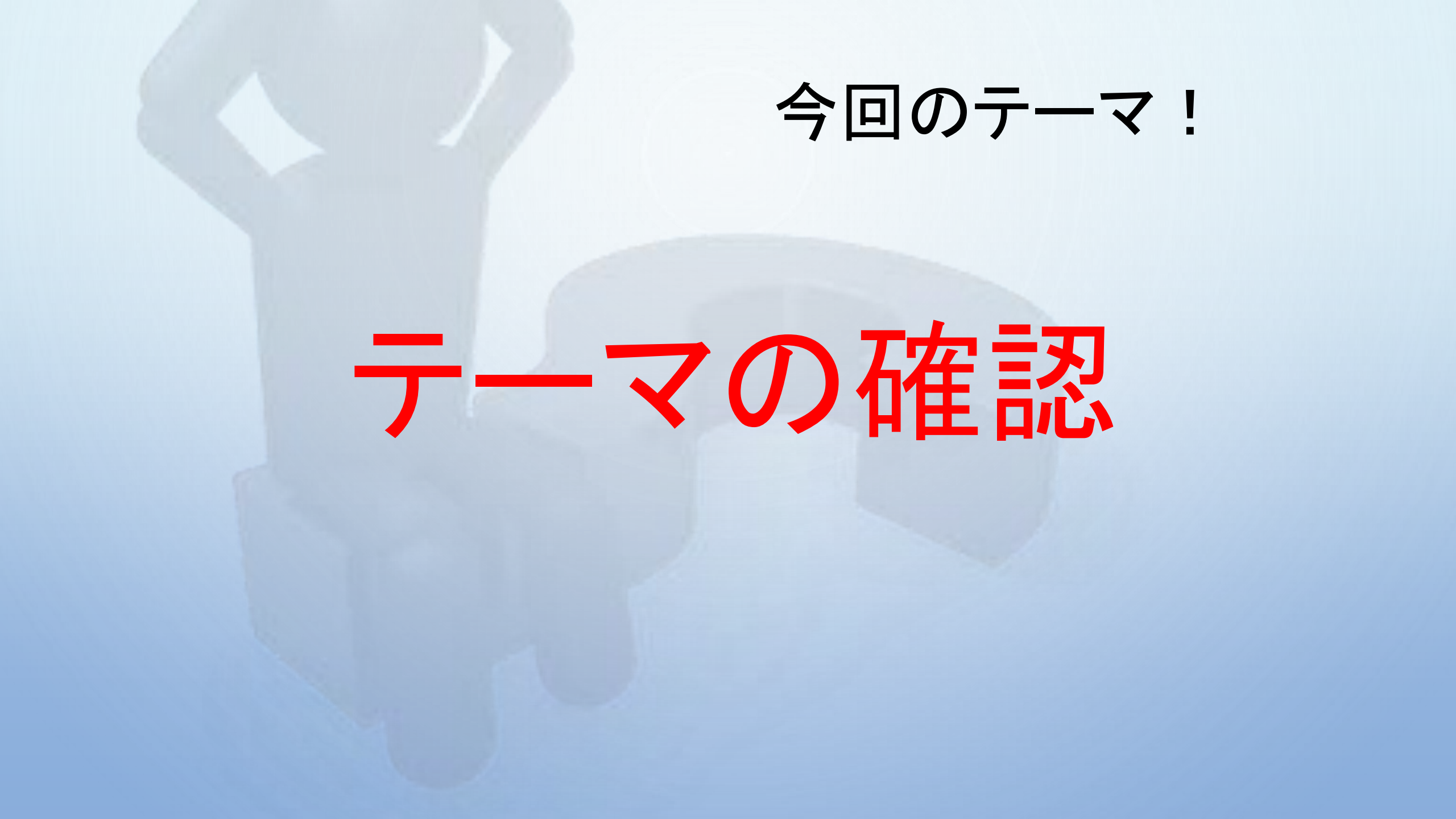
櫻本 和也

★前回の振り返り★

- カウンセリングマインドに関する概念を中心に、
反転授業に向けてグループで情報収集と情報の
精査を進めてきた

☆今回のポイント・到達目標！☆

- 今回の反転授業で，保育者を志す者同士，個々のカウンセリングマインドを巡る想いに触れ，仲間と協同してその在り方について理解を深める

A faint, light blue background illustration. On the left, a stylized human figure stands with hands on hips. To the right, a large, light blue question mark is visible. The overall background is a gradient of light blue.

今回のテーマ！

テーマの確認

Let's share our knowledge together now!

- 各グループで自分たちの島を作る(机を合わせる)
- 自分たちの島に1名を残し, ほかのメンバーはクジで別の島に移動して授業を受ける!!
- 終了のアナウンスがあるまでは, 島のなかで勉強してきた内容について質疑応答をする
- 上記のオペレーションを4回繰り返す(発表者は1回だけ)

情報共有と認識共有

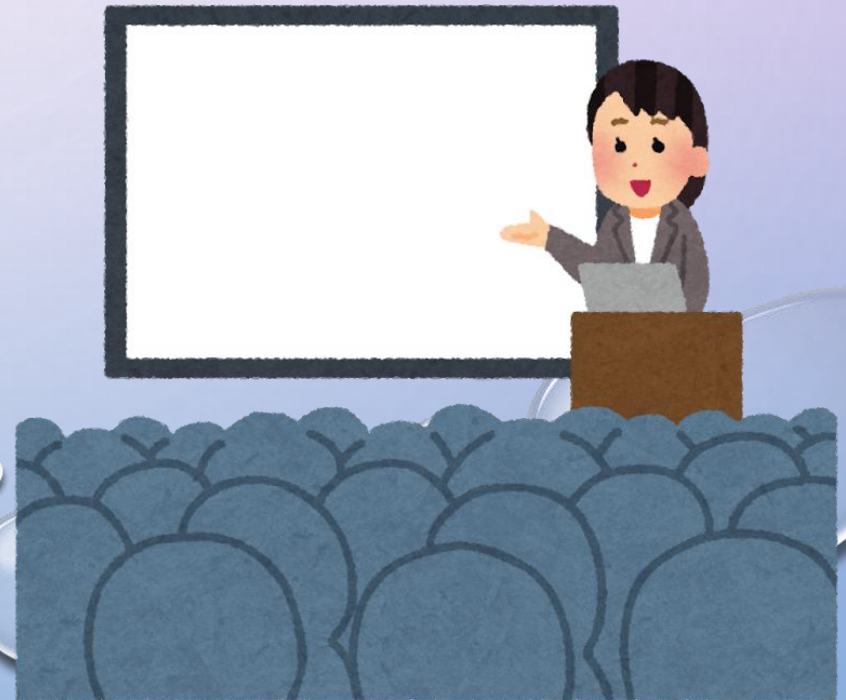
- 反転授業のため相互の協力が必要不可欠
- 一人の学びがみんなの学びに，みんなの学びが一人の学びに！！
- 一人6分＆3分の質疑応答
- 時間を余すことなく説明ができるように配布資料を作成して提出する





もう一度聴きたい〇〇〇〇さんの授業！

教育者が持つべき カウンセリングマインドについて



カウンセリングマインド

- 相手の立場に立って、その人の考えや行動を共感的に理解しようとする態度のこと

「カウンセリングをするときの心がけ」

専門的なカウンセラーよりも、教員、保育士、看護師など、
カウンセラーに近い役割をした人たちの間で使われている



カウンセリングマインド

- コミュニケーションをする際に 相手の言葉を否定せず、
相手のありのままを受け入れる受容的な態度
相手の気持ちになって話をする共感的な態度で聴く



先生とカウンセラーの相違点

- 教育者は生活・生徒・進路指導を担う者
相談を聴きながら指示や改善策を提示する



子ども一人ひとりの家庭環境から身体の調子,
友だち関係や学業成績まで, 子どもをトータルに理解できる

教師と カウンセラーの違い



カウンセラー

話を聴くことが
中心

教師

話を聴くこと
教えること・
評価することが
中心

・教師の中でだれが適しているのか・・・

教師カウンセラー
として選ぶ場合



- ・ 生徒や同僚教師から信頼されているということ
- ・ 信頼されているには人柄, 人に対する温かい気持ち, 心の深さ, 人の話を聴くことが好きということ
- ・ 同僚からの信頼がされていると生徒の問題が発生した時も教師同士が気軽に相談ができること

教師カウンセラーは
教えること聴くこと
一人二役として求められる

その他に求められる
ものは・・・



- 教師カウンセラーは秘密厳守の問題や学校内で、どこまで生徒や保護者の秘密を守れるのか
難しい問題と直面させられることが多い

教師カウンセラーの困難さ



- カウンセリングをどこで学ぶか

多忙のなかで研修を受けることやカルチャーセンターでのカウンセリング講座、再教育の場として大学院などで(倫理・実習・教育分析・スーパービジョン)学ぶ。また他者の心の深いところを聴くために自分自身の問題と混同・混乱が生じるのでその前に自分自身でカウンセリングを受けることで他者の気持ちが分かるようになること

- 教えること聴くこと

自分が教えていることはどうしても教えたいのが教師の習性で、心の問題を気がついていてもつい教えたり, 説教したくなる誘惑に駆られやすい。教師は, 教えることに重心を置いているので聴くことを軽く扱う傾向が強いので教師カウンセラーはその重心を聴くことに置ける人が適任

• 聴いた秘密を守る

秘密厳守義務。カウンセリングでの秘密厳守を学校全体が認めるのであればよいが、教師カウンセラーは教師でもあるので生徒が校則を守るような指導をする校則に違反したのを知った場合、学校に報告、担任に伝えるなど生徒を守ろうと思っても、うまくいかないことが多い

• 現実適応を願う

その子らしさを発見し、その子の力で生きていけることを願うカウンセリング。本人が自分で決められ、行動できるようなること、そして人の真の幸せとは何かという問いをいつのも心の中で考え、温める必要がある

• 保護者との関係

保護者の心配や不安な気持ちを聴くこと。保護者は、どこか学校に責任があるという気持ちがあるために学校責めることがあるが、それでもひたすら話を聴く。保護者の方が人生経験が深いため、年齢が若い教師カウンセラーだと圧倒されることも少なくない。教師カウンセラーの年齢を考慮に入れて対応することが肝要

スクールカウンセラーの役割

- ①学校カウンセリング
- ②仕事内容
- ③生徒との関わり方
- ④参考文献



学 校 カ ウ ン セ リ ン グ

対 象 : 学校教育を背景とした諸問題
(不登校、いじめ、家庭内暴力 など)

職 種 : スクールカウンセラー

教育相談員

心の教室相談員

学生相談員



仕事内容

①児童生徒へのカウンセリング

例)相談室等での相談活動

②カウンセリング等に関する教職員及び保護者に対する助言・援助

例)保護者に対する講演、研修会

③児童生徒のカウンセリング等に関する情報収集・提供

例)教職員へのコンサルテーション(連携)

④その他、児童生徒のカウンセリング等に関し、適当と認められるもの

例)「相談室だより」等の発行に関しての情報提供



生徒との関わり方

- ①「直接的なカウンセリングを通じた関わり」というより「間接的
コーディネーション」を中心にとすること
- ②援助方針を立てるために必要なアセスメントを実施すること



先生とカウンセラーの相違点

• カウンセラー

主な役割は不登校やいじめなど、生徒の心の問題への対応
話を聴いて指示を出すのではなく、相談者自らが改善策を生み
出させるように相談を聴く



エンパワメントを大切にして相談・話を聴く

教育現場で活かすことのできる カウンセリングマインドの具体例



例) 不登校

教師: 不登校になった原因を探す

生徒本人と直接話をして、生徒本人の主張を聞き、「こういう行動を
してみてもどうか」などの提案(指示)を生徒に伝える

カウンセラー: 不登校になった原因を探す

生徒本人が「どういう行動を取りたい」のかを指示をさせて言わせる
のではなく、生徒本人から言えるような関わり方、雰囲気を作る



保育者が有する「カウンセリングマインド」
について理解が深まったか？

☆本日の振り返り☆

- カウンセリングマインドについて自分の言葉で説明できるように調査を展開した
- 「カウンセラー」と「教育者」が有するカウンセリングマインドに関して、子どもたちの「先生」になることを志している保育者である私たちは「カウンセラー」になるわけではなく、子どもたちの「先生」になることを志している保育者である